

あらためて...

療育ってなあに？

～幼児期から学齢期へ～

南子育て支援センター
療育相談班

総体的な取り組みの一例

医療とのつながり
お子さんの正しい
診立て

お子さんの発
達状況を客観
的に知ること

お子さんに合わ
せた成長・発達
の促し

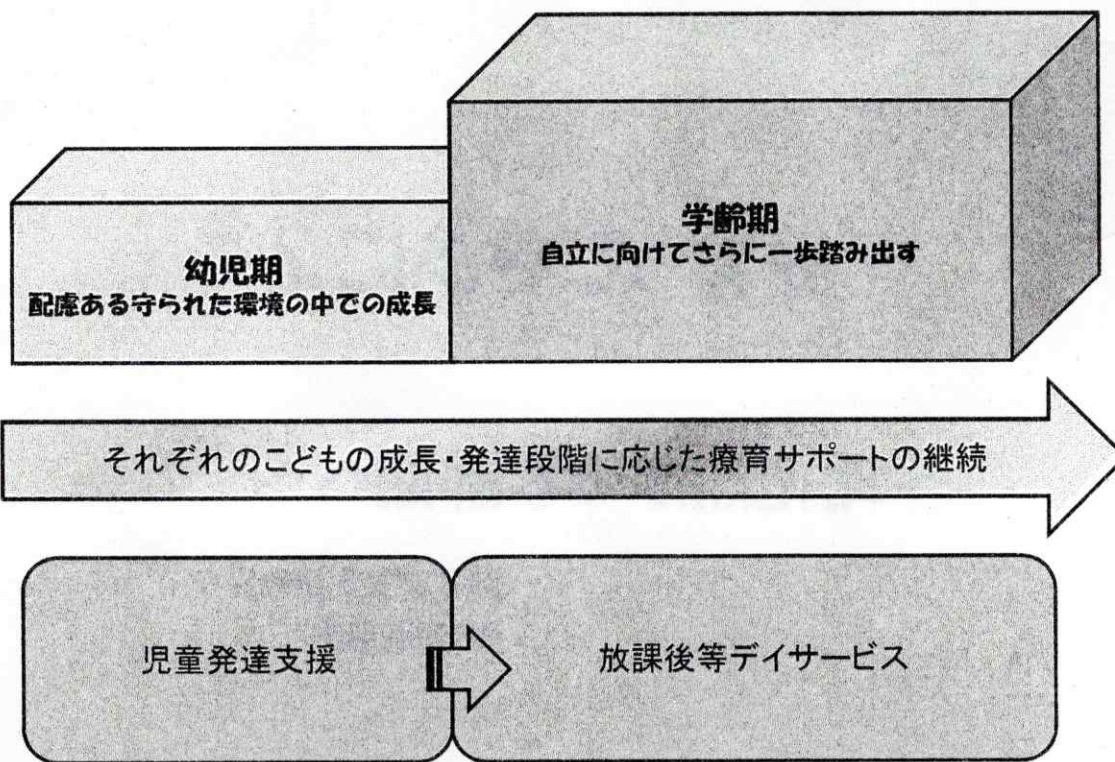
お子さんの状況
を関係者に伝え
てサポートを受け
やすくすること

必要な用具や
装具の作成
サービスの整理

お子さんが理解し
やすい環境設定、
集団選択



療育



長期目標は人への信頼と自分への信頼の獲得

こどものこころの発達の一例

	こころの発達	抱きがちなマイナス感情	望ましいプラス感情	プラス感情を得るために必要な体験
高校生～	・社会の中の自分をイメージする	・ぼくは(私は)だめだ ・社会が悪い	・得意不得意のある自分と上手につきあっていく ・人と関わりながら自分に合った方向性をみつける	・人への信頼と自分への信頼を持って社会へ！
小学校高学年～ 中学生	・自分を客観視しはじめる ・自分とはどういうところがある人か意識し始める	・どうせぼくには(私には)できない ・だれもわかってくれない	・ぼく(わたし)には苦手なこと「も」ある ・自分にあった工夫をすると取り組みやすくなる ・気の合う友人がいる	・自分で乗り越えられたという体験 ・他者からがんばっている自分を認められ見守ってもらえた体験 ・仲間を得る体験
小学校低学年～ 中学年	・集団の中で自分を意識する	・あの子(は)できてぼくは(私)は)できない	・少し助けってもらえることができる ・工夫を教えてもらえることができる ・苦手なこともあるが集団の一員として大事にされている(集団への所属感)	・理解してもらえた体験 ・工夫することを教えてもらえた体験 ・仲間意識を持つ体験
幼児期	・大人との関わりの中で自分を感ずる	・いやだ ・できない	・認められてうれしい ・ぼく(わたし)にもできる ・安心	・認めてもらえた体験 ・わかってもらえた体験 ・うまくいかない不安に寄り添ってもらえた体験 ・達成できたと感じる体験

学齡期ってどんな時期？

- 学校デビュー⇒学習の場での自己発揮
時間枠の中での生活
- 放課後の過ごし方⇒オンとオフのバランス
安心できる居場所の確保
- やがて思春期⇒自分らしさを求めて

* どの部分をどんな場でどのくらいの量サポートするとちょうどよいのか

イラスト出典:『かわいいイラストデザイン』ひかりのくに